

働く女性のライフスタイルと生活設計—看護婦等の場合—  
第1報 居住および勤務状況について

○大阪樟蔭女大学芸 一棟宏子

大阪城南女短大 喜多智子  
大阪樟蔭女大学芸 伊海公子

目的：本研究は、働く女性の家庭生活における問題点を考察することにより、生活環境の改善に寄与しようとするものである。今回、看護婦等を調査対象としてとりあげたのは、①女性の専門職として職域が確立していること ②職業への帰属意識が強く、継続して働く人が多いこと ③高齢化社会の中で、看護婦の役割と需要がますます増大していること ④看護の仕事を通じて、生死に関わる問題意識が高いこと等の理由によっている。

方法：大阪府、京都府の病院に勤務する看護婦、准看護婦、看護助手に、病院および看護学校を通じて調査を依頼した。主な調査内容は、家族と住居、仕事、家庭生活、人間関係と余暇、老後の計画の5項目である。調査時期は1992年9月～10月。有効回収は1158件。

結果：8割以上がフルタイムで働いているが、居住および勤務状況は次の3グループ別に異なった傾向を示している。①単身居住者(423件)は平均25.6才。寮や借家に住む者が9割を占め、通勤時間は平均15分で職場に近い人が多い。三交替制勤務がほぼ半数、二交替も20%を占める。1カ月で平均184時間就労し、年収は200～400万円が最も多く約44%。看護婦歴は平均5年である。②未婚で世帯に属する者(348件)は平均22.7才。6割強が持家に住み、通勤は約31分。1カ月で平均172時間就労している。三交替制勤務は36%、二交替は25%を占める。年収は200万円未満が約49%と低い。看護婦歴は平均3年である。③既婚者(332件)は平均38.5才。約5割が持家、4割が借家に住んでいる。通勤は平均27分。1カ月平均で170時間就労し、年収は300～500万円が約49%を占めている。世帯収入の中で自分の収入が4～5割を占める世帯が52%。看護婦歴は平均14年であった。